

2025年3月11日

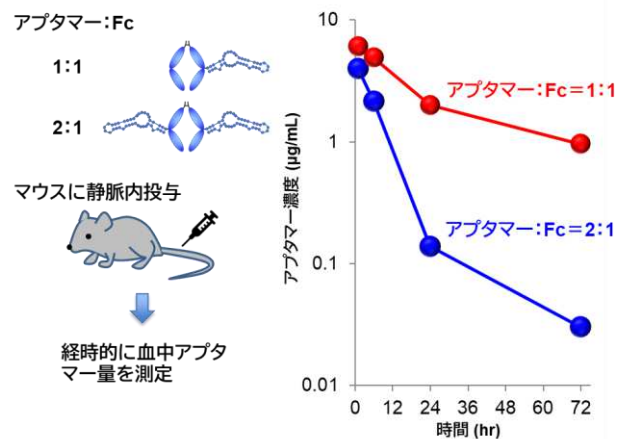
各位

会社名 株式会社 リボミック  
代表者名 代表取締役社長 中村 義一  
(コード番号: 4591 東証グロース)  
問合せ先 財務 経理部 部長 今井 利哉  
<https://www.ribomic.com/contact.php>

## 味の素株式会社との共同研究開発に伴う抗体 Fc 領域融合を用いた 動態延長技術の開発と特許出願完了のお知らせ

株式会社リボミック(東京都港区、代表取締役社長 中村義一)は、この度、日本国特許庁に対して、核酸アプタマーと免疫グロブリンのFc領域とのコンジュゲート及びその血中半減期延長に関する特許の出願を行いましたのでお知らせします。

当社は味の素株式会社(東京都中央区、社長 中村茂雄)と、次世代型アプタマー医薬品の実現を目指した共同研究を実施して参りました(2023年12月25日公表)。本研究では、免疫グロブリンが有する血中滞留性に着目し、核酸アプタマーと免疫グロブリンを融合させることによる血中半減期延長技術の開発を目的としております。当社独自の核酸アプタマー化合物作成及び測定技術と、味の素グループが有する抗体-薬物複合体製造技術「AJICAP<sup>®</sup>」を組み合わせ、免疫グロブリンの部分タンパク質であるFc領域に対して核酸アプタマーを共有結合させたコンジュゲート体<sup>註</sup>を作成いたしました。Fc領域と核酸アプタマーの結合比率、並びにリンカー構造の検討の結果、結合比率を1対1に調節することにより、核酸アプタマーの血中半減期を飛躍的に延長させることができることを見出しました(挿入図参照)。



今回特許出願された技術は、従来のポリエチレングリコール(PEG)修飾技術に代わり、核酸アプタマーを用いた次世代医薬品の薬物動態を画期的に向上させる可能性を秘めています。当社は、この技術により核酸アプタマーが抗体医薬と同等な血中滞留性を獲得できれば、アプタマー医薬品の開発が飛躍的に発展するものと考えています。今後、Fc・アプタマー結合技術は、重要なコア技術として、核酸医薬開発における世界標準に発展するものと期待しています。

なお、本件に関する2025年3月期通期業績への影響はありません。

註 コンジュゲート体とは、2つの化合物が結びついた化合物のことを表します。

### 株式会社リボミックについて

創薬バイオベンチャーとして、次世代医薬品としての開発が期待されるアプタマー医薬品の開発をコアな事業として、疼痛、眼障害、骨疾患など、幅広いアンメットメディカルニーズをターゲットとして創薬に取り組んでいます。また、当社の RiboART System<sup>®</sup>を創薬以外の分野にも応用し、アプタマーの医薬品以外での新規用途開発

にも取り組んでおります。詳しくは、<https://www.ribomic.com> をご覧ください。

#### 味の素株式会社について

味の素グループは、当社、連結子会社111社及び持分法適用会社15社(2024年6月現在)より構成され、調味料、栄養・加工食品、ソリューション&イングリエディエツツ、冷凍食品、医薬用・食品用アミノ酸、バイオフィーマサービス(CDMO)、ファンクショナルマテリアルズ(電子材料等)、更にその他の事業活動を行っています。“Eat Well, Live Well.”をコーポレートスローガンに、アミノサイエンス<sup>®</sup>で、人・社会・地球のWell-beingに貢献し、さらなる成長を実現してまいります。詳しくは、<https://www.ajinomoto.co.jp> をご覧ください。

以上